

## 茶道とコロナの関わり方

大阪市立桃谷中学校二年（大阪府）

## 畠山 葵

約一年前、私は茶道部に入部した。きっかけは祖母が茶道の経験があるということ、中学に上がる前から興味があったということ、兼部が可能だったということ。しかし、当時の私は茶道の礼儀や作法に関しては全く知識がなかった。とても静かでおしとやか。イメージとしてはそんな感じだった。

待ちに待った仮入部の日、私は和室へと足を運んだ。引き戸を開けると、畳の香りがマスク越しからも伝わった。すると「こんにちは。仮入部の体験ですか？」と着物を着た女性の先生が障子から顔を出す。今度は「わーい！一年生が来てくれた！」と元気な声が聞こえてきた。三年の先輩だった。私のイメージがこの一瞬で一気に覆った感じだった。

そこから三十分ほど、部屋の入り方やお茶のいただき方を教えてもらった。短い時間での体験だったが、先生や先

輩たちの温かい雰囲気がとても心地良く、入部を決意した。

後日、担任から入部届けが配布され、学年や名前などの情報を書きこんだ。親には同意のハンコを押ししてもらい翌日提出。

正式に入部してから数カ月。その時は二年生はいなかったが、三年生の先輩と、同じ日に入部したたった一人の同い年の親友とはとても仲良くしていたし、それなりに基礎練習もして、基礎的な動きが分かるようになり、茶道部の活動がより楽しく感じられた。

体育大会が終わった十月頃には一年生が三人、二年生が五人入部し、より一層にぎやかになった。自分ができる部分は友だちに教えつつ、私も上達できるように、先生や先輩から指導してもらった。

二年生に上がると部長になった。一年生は五人も入部してくれた。

この一年とちよつと、コロナウイルスによって無くなつてしまった行事はある。特に茶道ではマスクをはずしてお茶をいただくため、制限されることも多い。実際に手洗いや換気、時間短縮などといった条件の中で活動している。しかし、このコロナ禍でしか体験できないこともあった。こんな経験はこれから先、逆に無いと思う。それに、コロナ禍だとしても上達することができた。いままでコロナウイルスの影響で無くなつた行事に加え、これから無くなつ

たり、違う形で行われたりすることは経験として考えることが大切だ。行事に参加できないから、例年通りの活動ができないからといって、今までの活動に対して不満は無いし、茶道部に入部したことを後悔していない。むしろ茶道に触れることができて本当に良かったと思う。これからもっと進歩できるように、コロナウイルスに気を付けて活動していきたいと思う。